

# 令和元年度第1回学校評議員会会議録

## 1 会議の名称

令和元年度岩手県立釜石高等学校第1回学校評議員会

## 2 会議の構成

### (1) 学校評議員

- 小林 智 (甲子中学校長)  
古川 幹敏 (同窓会副会長)  
岡道 博美 (元PTA会長)  
菊地 次雄 (日東自動車工業株式会社代表取締役)  
猪又 恵美子 (定時制教育振興会監事)

### (2) 学校職員

- 鈴木 広樹 (校長)  
金濱 千明 (全日制副校長)  
松田 隆宏 (定時制副校長)  
鈴木 勇悦 (事務長)  
小澤 光悦 (総務主任)  
及川 総司 (教務主任)  
門脇 悌志 (進路指導主事)  
山蔭 政徳 (生徒指導主事)  
吉田 英男 (SSH推進室・理数科主任)

## 3 会議の開催

令和元年6月20日(木) 15:30~16:40 [釜石高等学校視聴覚室]

評議員5名、学校職員9名

## 4 会議の次第

新評議員辞令交付

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 令和元年度学校経営計画について
- (4) 学校概況報告について
- (5) 意見交換
- (6) その他
- (7) 閉会

## 5 会議の概要

### 意見交換の概要

- ・1年生の増加の背景として三陸鉄道の開通が挙げられるということだが、利用している生徒数はどれくらいか？
  - 全校で65名で、思った以上の利用者数である。大槌から20名で平均的な人数。吉里吉里から乗る生徒が増えた(13名)。また、山田から来る生徒も増えた(12名)。時刻もちょうどよくなった。またSSHの効果もあるかもしれない。
- ・列車時刻で問題はないか。
  - 松倉着7:09で登校している生徒もいるが、はまゆりが7:53に松倉に止まるようになったので、朝学習の開始時刻を8:05に遅らせて間に合うようにしている。
- ・教務課で掲げている学年+1時間の家庭学習時間は、達成できているか。
  - 遠方から通う生徒も多く完璧ではないが取り組む仕組み作りはできている。よい方向に進んでいくと思う。
- ・新テストに向けて、中学校に望むことは
  - 小、中学校の方が新しい教育課程での指導という点では進んでいるので、特に要望することはない。文部科学省の指導するとおりにやってもらってれば十分である。記述については騒ぐことはない。もともと高校では指導してきたことである。資料の読み取り問題が前面に出てくるくらいか。  
学力の低い生徒には厳しいテストになっていくと思う。  
授業の中で発表したり話し合ったりということができるようになってきている。そのあたりの指導を継続してもらえればありがたい。
- 学力調査のB問題のレベルが解けるようなスキルを身につけてもらえるといい。
- ・学校評価アンケート〔保護者〕の⑫「学校通信などの文書類が保護者に確実に伝わっている」について、全学年で評価が下がっているのが、以前と変わっていないが、たとえばメールでの連絡はどうか。うるさいという意見もあるが、活用を考えてみたらどうか。
  - 現在は緊急用のみ。検討する。
  - (他の評議委員より)それは生徒の責任である。高校生にもなって親に学校からの文書を渡せないというのが情けない。
- ・大学の就活セミナーではコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の重要性を強調しているが、そうした能力を高校のうちからつけるための取り組みは？
  - SSHがそのような能力の養成に役立っている。
- ・私立大学の進学先を見ると「——医療大学」という名前の大学が多いが、学科・コースはどのようなところに進んでいるのか。
  - 看護が多い。あとは心理など。
- ・SSHの進路への影響はあるか。

—ある。面接試験等でよい影響が出ている。SSHにきちんと取り組んだ生徒にとってはプラスに働いている。

・ 定時制の新生が3名と少ないが、転入者は出てこないだろうか。

—ない。認めるための条件があるので、簡単にはできない。

—全日制からの転入というのは前例がある。

・ 中高生の自転車事故という話を聞かない。小・中学校での指導が高校でも生きているのだろうか。

—実は自転車通学者自体が非常に少ない。